

# 平成21年度

# 「介護の日」の取組について

社会・援護局福祉基盤課

11月11日は「介護の日」です。  
今回の小特集では、「介護の日」における厚生労働省や地方自治体、関係団体の取組について、御紹介いたします。

## 「介護の日」について

高齢化などにより介護が必要な方が増加している一方、介護にまつわる課題は多様化しています。こうした中、多くの方々に介護を身近なものとし

てとらえていただくとともに、それぞれの立場で介護を考え、関わっていただくことが必要となっています。そのため、介護についての理解と認

識を深め、介護サービス利用者及びその御家族、介護従事者の方々等を支援するとともに、これらの人たちの取り巻く地域社会における支え合いや

交流を促進する観点から、昨年7月に、介護に関する啓発を重点的に実施する日として、「11月11日」を「介護の日」と設定しました。

## 「介護の日」フォーラムについて

この「介護の日」の行事の一環として、介護の日当日の11月11日、有楽町の東京国際フォーラムにおいて、「介

護の日」フォーラムを開催しました。当日は、あいにくの天気であったにもかかわらず、定員を上回る約35

0名の方々に御参加いただきました。開会に当たり、長妻厚生労働大臣より、「介護の日に合わせて、多くの

方が介護に関心を持ち、若い方も介護の現場で働いてみようと思う機運を作ることが重要であり、行政と皆様

の力を合わせて、介護の現場をより充実したものにしていきたい」との挨拶がありました。

続いて、財団法人長寿社会開発センターによる「明日の介護〜わたしの提言〜」コンクール表彰式が行われ、厚生労働大臣賞をはじめとした各賞の表彰が行われました(左表)。



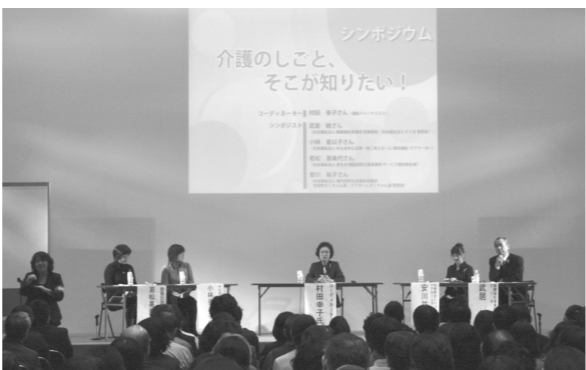
長妻大臣より厚生労働大臣賞を授与

このコンクールは、介護サービスの質の向上や、介護人材の確保・処遇、介護職のイメージアップなど、現在、介護分野において指摘されている様々な課題の解決に向けた提言を広く募集したもので、「義務教育に『介護学』を取り込む」「将来自分が受けた介護サービスを伝えるため、認知症や寝たきりになる前に、「元気な時から『自己ケアプラン』を作成する」「介護保険に『御利用者の御家族はホームヘルパー2級の養成研修が受けられる』というサービスを新設する」など、様々な御



自らの介護体験を語る綾戸智恵氏

提言をいただきました。その後、ジャズシンガールの綾戸智恵氏による「福祉・介護をめざす人、働く人へのメッセージ〜家族の介護をとおして感じたもの〜」と題した記念講演が行われました。講演の中で、綾戸氏は、母親の介護における苦労話や介護を通じての御自身の考え方の変化に触れ、「愛情を持った介護が一番大切」「歌い続け



シンポジウムでは介護への熱い思いが語られました

た10年より、歌を休んで母を介護した1年2か月の方が得るものがたくさんあった」「介護の仕事で働いていきたい」等と述べました。引き続き行われた「介護のしごと、そこが知りたい!」と題したシンポジウムでは、福祉ジャーナリストとして御活躍中の村田幸子氏をコーディネーターとして、また、介護現場の第一線で働いておられ

る方々等をシンポジストとしてお迎えし、介護への想いやお考えを熱く語っていただきました。介護の魅力ややりがいから、御自身がお考えになる介護現場の課題、職場選定のポイントまで、極めて多岐にわたる活発な議論が行われました。

介護の日当日にこのような全国フォーラムを実施するのは初の試みでしたが、会場は熱気に包まれ、多くの来場者の方々が熱心に耳を傾けておられました。このようなイベントは、各自治体等でも開催されています。皆様も、機会がございましたら、是非とも、最寄りのイベント会場まで足をお運びいただき、介護について改めて考えるきっかけとしていただきたいと思います。

### 「明日の介護〜わたしの提言〜」入賞作品

#### ■厚生労働大臣賞

金井朋子様  
「子どもたちにも『介護学』を学ばせたい」

#### ■財団法人長寿社会開発センター理事長賞

武田美樹様  
「未来をプロデュースする『自己ケアプラン』」

#### ■社団法人日本介護福祉士会会長賞

佐藤玲子様  
「私の介護の小さな提言」

#### ■日本ホームヘルパー協会会長賞

小川由佳理様  
「介護するご家族も介護の資格を取れるように!」

#### ■一般社団法人日本介護支援専門員協会会長賞

溝口 文様  
「私らしい介護〜家族と介護サービスの連携を踏まえて〜」

#### ■審査委員特別賞

高森政文様  
「責任とプライド」

#### ■審査委員特別賞

横井 靖様  
「新たな減税の創設と費用控除の見直しについて」

各受賞作品は、<http://www.nenrin.or.jp/center/event/asunokaigo.html>で御覧いただけます。

# 介護のコト体験フェア 知って得するプロのワザ〜について

## 東京都福祉人材センター

「介護の日」の11月11日、「福祉の仕事イメージアップキャンペーン事業」実行委員会(事務局:東京都福祉人材センター)では、「介護の日」フォーラムと同会場で、「介護のコト体験フェア」を知って得するプロのワザ〜を開催しました。

今回の企画は、多くの方に「福祉の仕事の魅力ややりがい」をアピールすることにより、福祉人材の確保を図るとともに、福祉の仕事の社会的評価



プロの実演を見てメモをとる参加者もいました



ステージでは認知症の寸劇も行われ、来場者はくいのように見ていました

の向上を目的に「福祉の仕事イメージアップキャンペーンイベント」として実施したものです。

福祉・介護業界への就職の可能性のある若い世代の方々をはじめ、在宅介護をしている方やこれから介護に直面する世代など広く一般の方を対象に、介護の仕事に関する最前線の専門知識・技術や介護の現場の魅力をわかりやすく伝え、体験できる内容とし、フェアの会場内では、「介護のコト

を体験できるWonderLand!」と題し、様々なコーナーを設置しました。

「活動紹介」コーナーにおいては、デイスの現場で健康体操として行われている「よさこいソーラン」のにぎやかな鳴子が来場者を迎え、その奥のセミナー会場では、「在宅介護ストレスへの対処法」や「高齢者住宅の選び方」「福祉用具の使い方」などのテーマで講演が行われ、定員を上回る人が講師の話に聞き入っていました。

また、在宅介護にも役立つように、生活の場面を考慮設定した「移乗」「たべる」「排泄」「入浴」のコーナーでは、介護福祉士や栄養士、福祉用具の企業など第一線で働いているプロたちがデモンストレーションを行う様子を来場者は真剣に見て聞いていました。中には、おむつ交換のモデルになって高齢者の気持ちや体験したり、開発されたばかりのパワースーツ(ロボット)を着て重い荷物を軽々と上げる体験をしている人もいました。「介護予防」のコーナーでは、歯科衛生士による口腔体操が人気でした。紙面では紹介しき



介護現場での実用化が期待されるパワースーツ。重いトランクも持ち上げることができました

れない数多くのプログラムが各コーナーで展開され、クロスワードパズル(答えは「かいこのひ」)を行いながら会場内をまわる参加者もいて、会場内は熱気に包まれていました。

高齢者福祉研究大会において都福祉保健局長賞を受賞した高齢者福祉施設職員への表彰や演題発表もあり、サービスの質の向上に取り組む様子も披露されました。

そして、専門職団体のコーナーや先輩職員の話聞くコーナー、福祉の仕事なんでも相談コーナーにも多くの人が訪れ、介護職ってどんな仕事なのか、資格は必要なのか、どんな学校

## 地方自治体、関係団体の取組

に行けばよいのか、といった質問が多く寄せられました。

福祉や介護の現場で働く人が中心

### 1 なら介護の日2009 — 奈良県

奈良県では、介護の日の11月11日、やまと郡山城ホールにて、「なら介護の日2009」を開催しました。

今年度は、家庭や施設などで介護をしている人たちが力づけるとともに、介護家族、専門職や市民ボランティア、企業、行政などによる幅広い支え合



会場には、平城遷都1300年祭マスコットキャラクターせんたくんも登場!

いの必要性について、共に考え、共に学ぶという趣旨に賛同するNPOや専門職団体など24の団体により構成する実行委員会に、奈良県もその一員として加わる形でイベントを開催しました。このような形式でのイベントの開催は、初めての取組となりましたが、イベントの「支え合いの地域をつくるために」という趣旨に最も沿った形式であり、今後の民間と行政の「協働」のあり方の一つの形を示すことができたのではないかと思います。

当日は、奈良介護大賞、あたたか介護賞の表彰、記念講演会、親守唄・歌会や介護・介護の仕事に関する無料相談、福祉用具の展示、高齢者向け食事のレシピの紹介など、盛りだくさんの内容のイベントとなりました。

奈良介護大賞、あたたか介護賞は、地域社会における支え合いの文化づくりにつながる介護の実践を募集し、顕彰するもので、29の団体、個人からの応募がありました。選考の結果、奈良介護大賞には、家族・地域介護部門に、脳卒中の後遺症と格闘しながら、生きる意欲と社会参加につながる活

動を続けている「奈良県脳卒中者友の会 桜の会」、介護サービス従事者部門に、24時間巡回型ホームヘルパーとして、主に午後9時から翌朝9時までの夜間の勤務を続けている吉本和美様(47)が選ばれ、また、あたたか介護賞には4つの団体と4人の個人が選ばれました。受賞された方々には、表彰状と副賞の旅行券が授与され、奈良介護大賞の受賞者からは、活動内容を紹介していただきました。中でも、桜の会からは、活動のひとつである「失語症合唱団」の合唱を披露していただき、来場者に深い感銘を与えました。

記念講演会は、社会福祉法人自立共生会理事長で医師でもある多湖光宗氏を講師に迎え、「認知症老人の底力を地域に生かす」と題して、自ら運営するグループホームでの取組について御講演いただきました。認知症老人の底力を子育てや地域の防犯に役立てている活動を御紹介いただき、皆様熱心に聴いておられました。

親守唄・歌会は、子から親へ愛を贈ると題して、詩、曲を募集し、全国から100を超える応募をいただきました。今回のイベントを通じて、いろいろな団体による支え合いのネットワークづくりについて、一つの発信ができたと思います。また、地道で小さな取組でも、



「失語症合唱団」の歌声は心に響きました

介護を自分のこととして真剣に考えている若い人達の存在にもめぐり会えました。このネットワークを二過性のイベントに終わらせず、大きく育てていくことができればと思います。

2 「介護の日」ひろめ隊の活動  
——日本介護福祉士会

日本介護福祉士会では、平成20年の「介護の日」制定より、「介護の日」ひろめ隊」を組織し、「介護の日」の周知、介護についての啓発を目的として、全国でイベントの実施など様々な取組を行っています。本年度は、「介護の日」ひろめ隊」の取組も2回目を迎え、ほぼ全国の都道府県で活動を展開することができました。



介護フェアの開催・大規模商業施設にて～岡山県岡山市

作に取り組んできました。イベントとして、街頭でアンケートを行い、「介護の日」の認知や「介護のイメージ」についての調査を行うとともに、「介護の日」の周知活動として実施しました。ほかに、介護に関する講演会やシンポジウム、パネル展示、介護体験や介護実技の指導などを行い、介護についての理解を深めてもらいました。また広報物としては、チラシやポスターのほか、本年度は「介護の日新聞」を作成し、介護の仕組みや成り立ち、サービスの利用法などに関する内容のほか、介護の取組全体についての情報提供も行いました。



11月11日:東京国際フォーラムにて「介護の日」ひろめ隊活動を展開

3 「相談窓口」「介護ウインド」  
——介護労働安定センター

介護労働安定センターでは、福祉人

材確保重点実施期間中(11月4日(17日)に介護事業主、介護労働者の雇用管理改善や能力開発、メンタルヘルス、経営全般などの相談窓口「介護ウインド」を全国的に開設し、また、介護関係団体等と連携を図り、様々な活動を行いました。その中から3つの取組を御紹介します。

●アクティブ介護21〜東京みんなの集い〜  
.....東京支部

東京都社会福祉協議会が主催、東京支部も共催で介護に対するイメージ向上や人材確保、人材定着のイベントを行い、介護事業主、介護労働者などへの相談や情報提供を行いました。



「介護フェスタいしかわ2009」の出展ブースで資料に見入る参加者のみなさん(石川)

●介護フェスタいしかわ2009への参加  
.....石川支部

県内の医療・保健・福祉の各専門職団体などが初めて共催して、広く介護のPRを目的としたフェスタが開催され、石川支部もコーナー出展しました。

このフェスタを契機に、参加団体においては、「介護が必要になっても安心して暮らしていける地域づくり」を目指し、これまで以上に連携・協力を深めて活動していこうという機運が出てきました。

●「介護の日」街頭啓発活動  
.....福岡支部

労働局、公共職業安定所、介護福祉士会と連携し博多駅前・天神周辺などで、街頭啓発活動を行いました。その様子はテレビ、新聞でも報じられ、介護について関心を持っていただくきっかけになったのではないのでしょうか。



横断幕掲げて街頭啓発。ハンドマイクで街行く人々に呼びかけるスタッフ(福岡市・天神)